

資料3

科学技術・学術審議会学術分科会
研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会
(第47回) 平成24年1月24日(火)

機関リポジトリ

名古屋大学附属図書館

松浦 好治

加藤 信哉

2012. 1. 24 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会 (第47回)

1 世界の機関リポジトリ

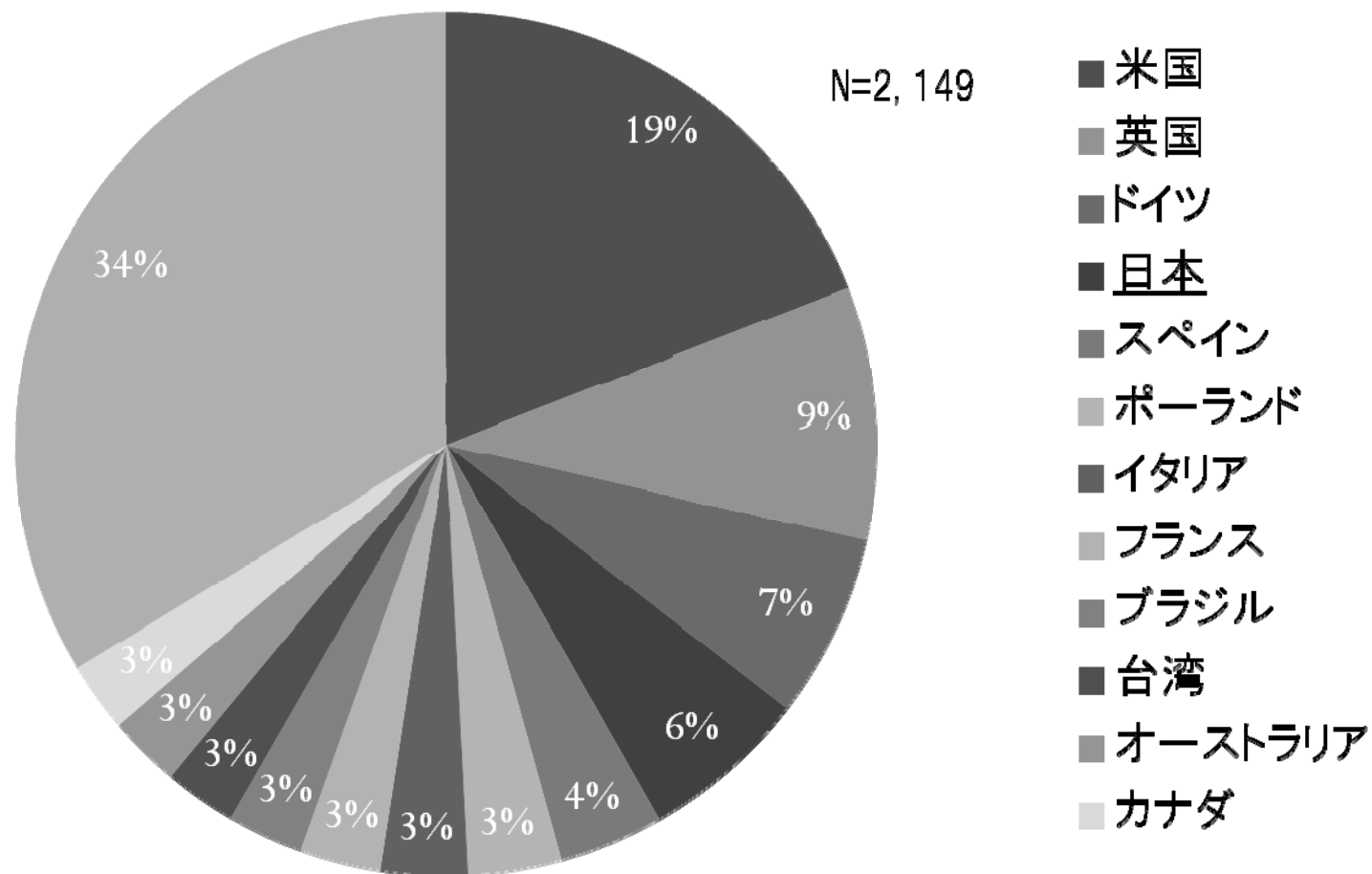
機関リポジトリ (Institutional Repository) とは

- 定義と役割

機関所属者の研究成果である論文等，大学及び研究機関等において生産された電子的な知的生産物を保存し，原則的に無償で発信するためのインターネット上の保存書庫。

研究者自らが論文等を掲載していくことによる学術情報流通の変革と同時に大学等における教育研究成果の発信，それぞれの機関や個々の研究者の自己アピール，社会に対する教育研究活動に関する説明責任の保証，知的生産物の長期保存の上で，大きな役割を果たす。

機関リポジトリの国別割合

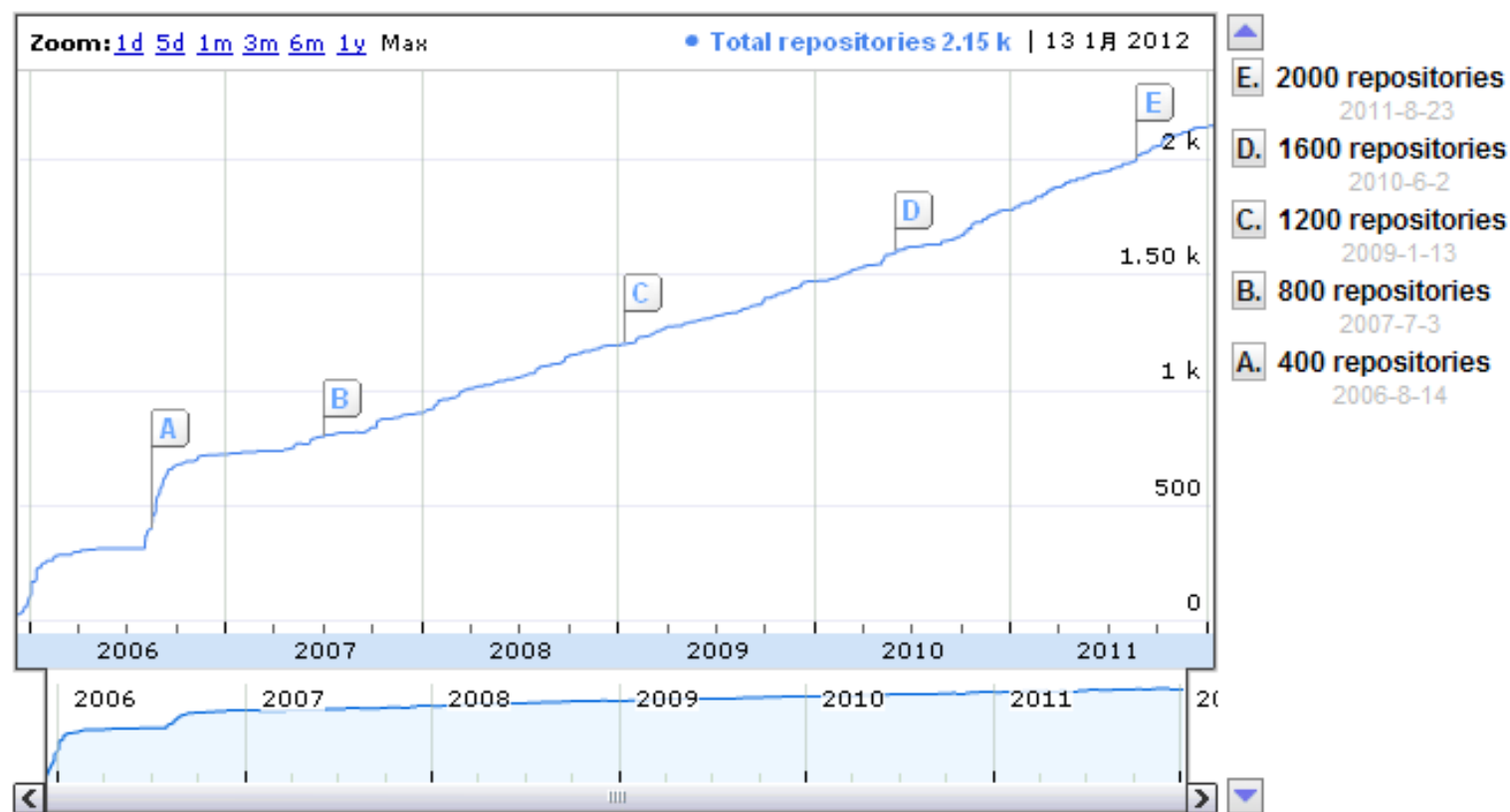


出典：OpenDOAR 2012年1月15日現在
<http://www.opendoar.org/>

機関リポジトリ数の増加

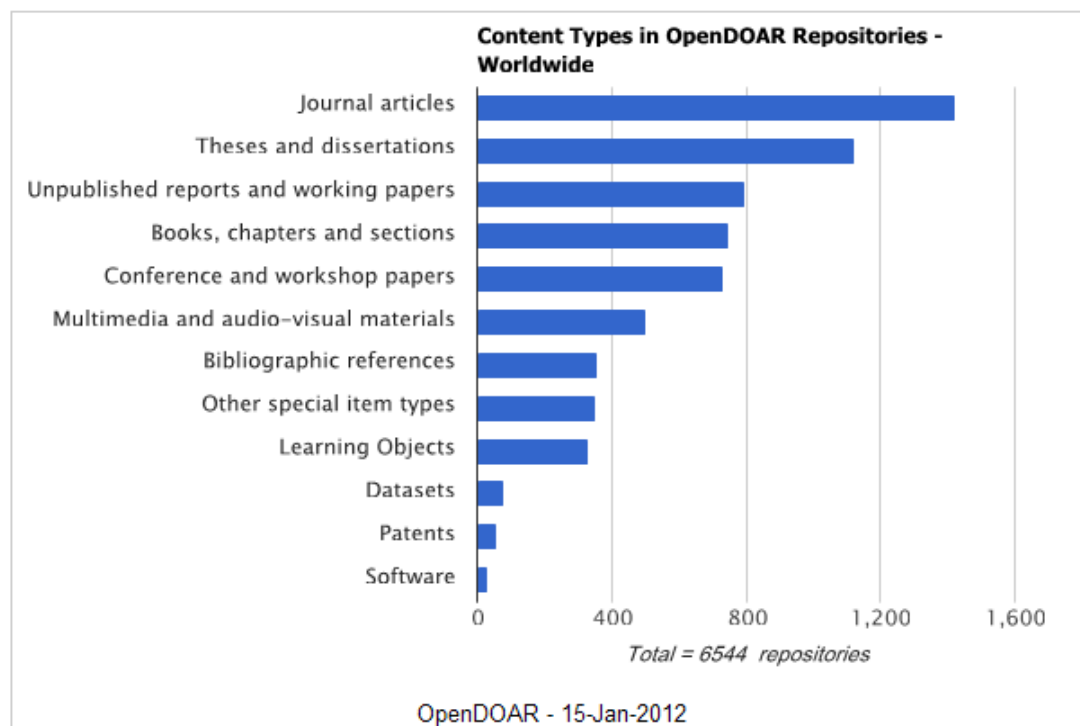
Growth of the OpenDOAR Database - Worldwide

OpenDOAR - 15-Jan-2012



機関リポジトリのコンテンツの種類

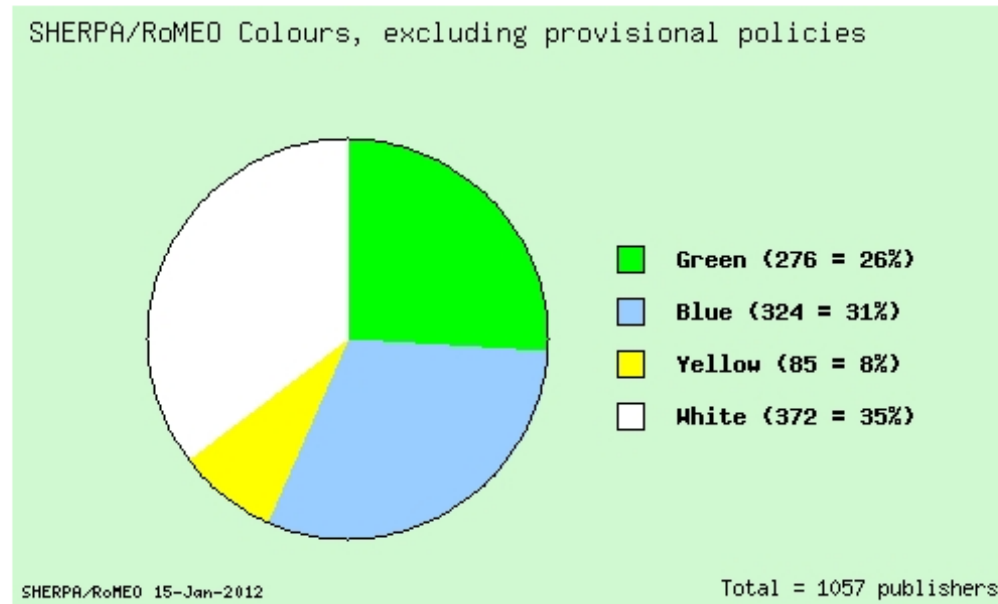
Content Types in OpenDOAR Repositories - Worldwide



セルフ・アーカイビングを許可している出版社

RoMEO colour	Archiving policy	Publishers	%
green	Can archive pre-print and post-print	276	26
blue	Can archive post-print (ie final draft post-refereeing)	324	31
yellow	Can archive pre-print (ie pre-refereeing)	85	8
white	Archiving not formally supported	372	35

Summary: **65%** of publishers on this list formally **allow** some form of self-archiving.



2 日本の機関リポジトリ

日本の機関リポジトリ数

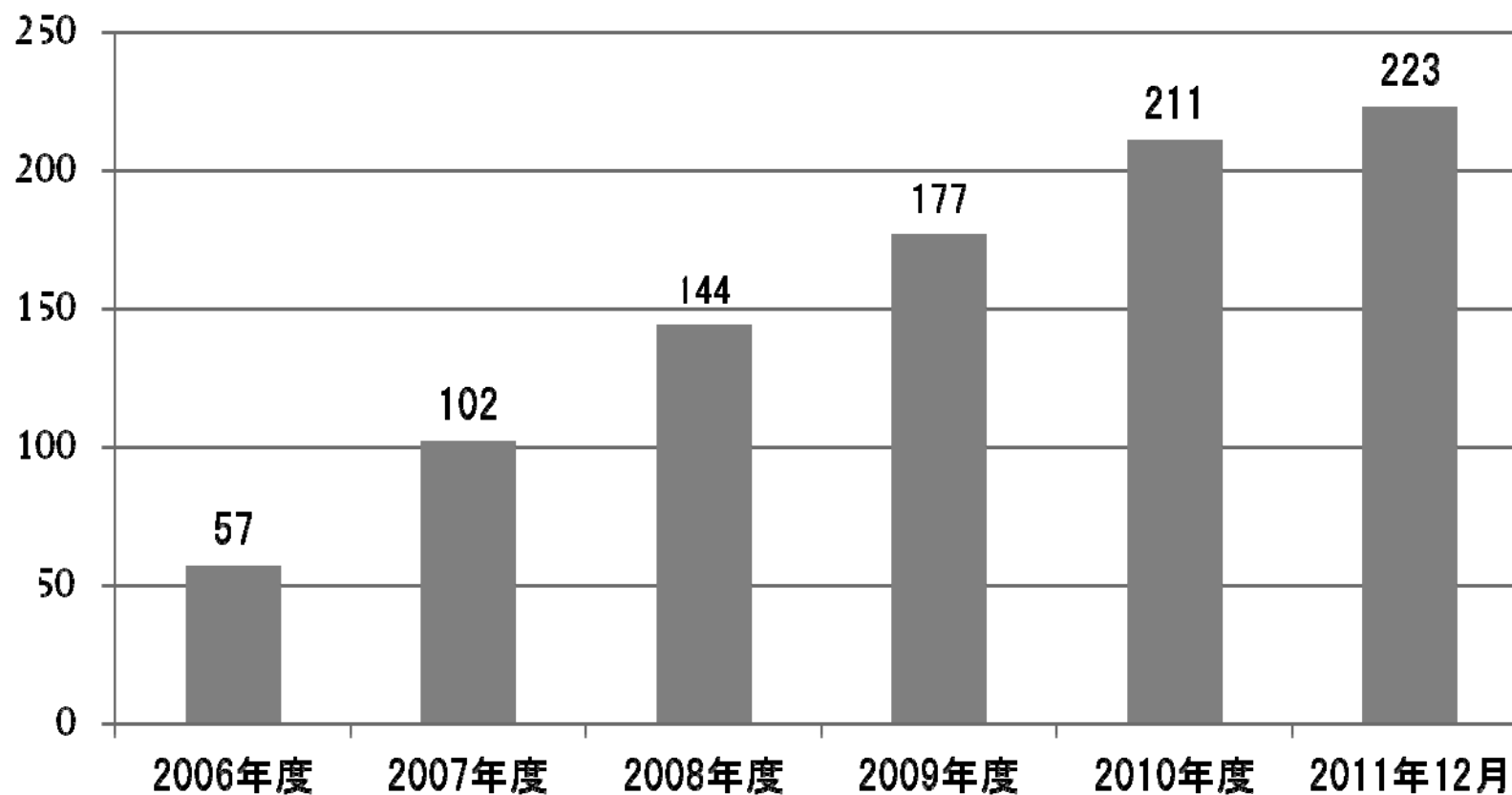
設置主体	機関リポジトリ数
国立大学	79
公立大学	12
私立大学	47
国立高専	1
大学共同利用機関	2
研究所	6
地域共同（複数機関を含む）	7
合計	154

2012年1月15日現在

出典：国立情報学研究所 学術機関リポジトリ構築連携支援事業
<http://www.nii.ac.jp/irp/list/>

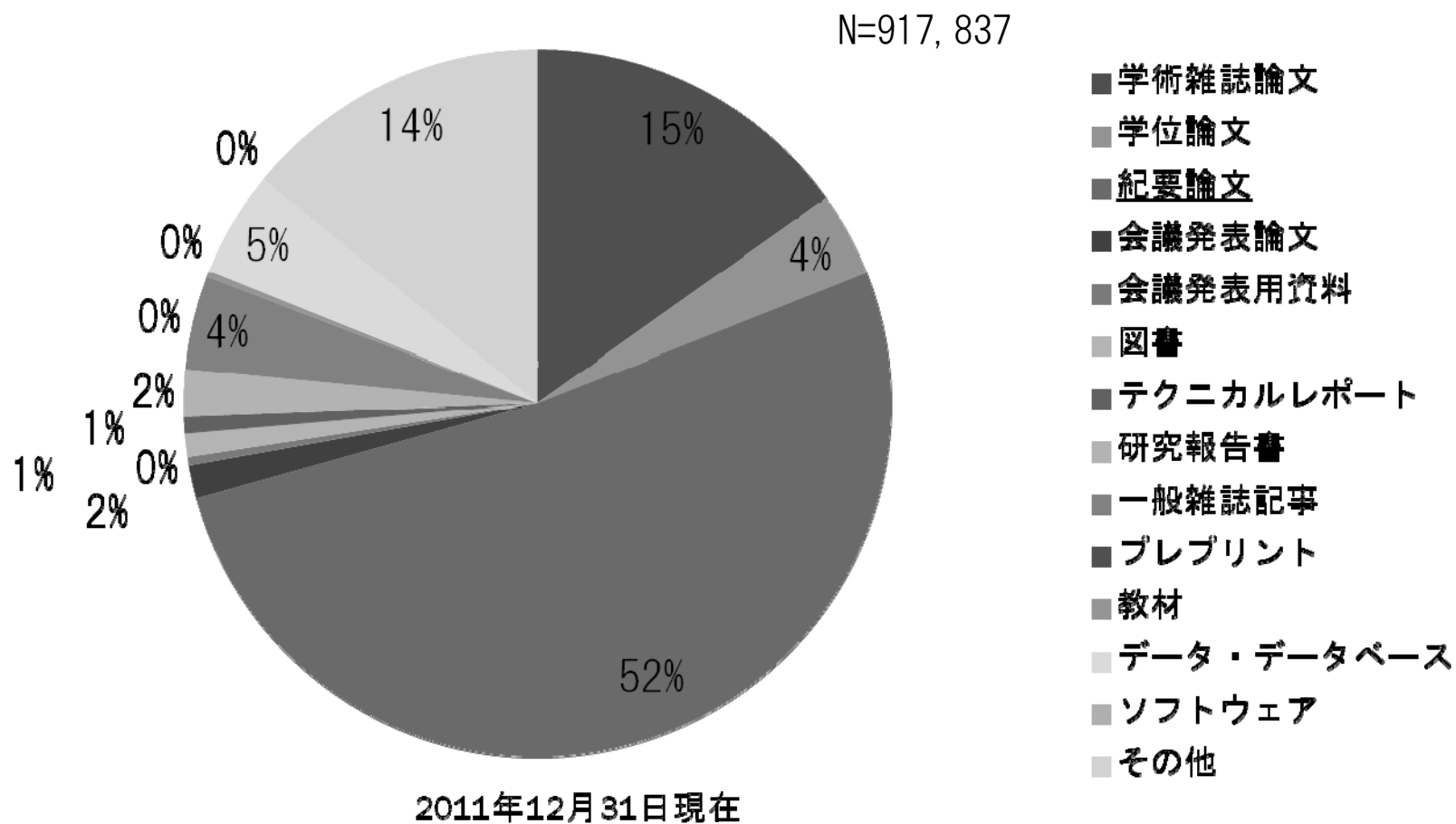
日本の機関リポジトリ数の増加

公開機関数推移



出典：http://www.nii.ac.jp/irp/archive/statistic/irp_2011_statistic.html

日本の機関リポジトリのコンテンツ 内訳



出典：IRDBコンテンツ分析システム
<http://irdb.nii.ac.jp/analysis/index.php>

日本の機関リポジトリのランキング (スペイン高等科学研究院) 2011年7月現在

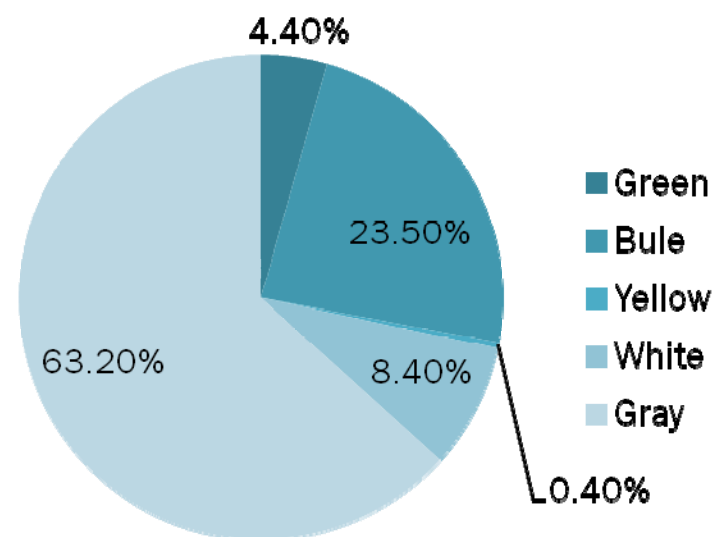
機関リポジトリ名	世界ランキング	登録件数*
京都大学学術情報リポジトリ	4	110,970件
HUSCAP (北海道大学)	13	36,451件
岡山大学学術成果リポジトリ	16	20,494件
QIR (九州大学)	18	17,006件
JAMSTEC機関リポジトリ	20	13,010件
NAOSITE (長崎大学)	24	20,767件
Nagoya Repository	41	12,727件
金沢大学学術情報リポジトリ	42	26,057件
TeaPot (お茶の水女子大学)	49	34,346件
TOUR (東北大学)	50	37,097件

出典：http://repositories.webometrics.info/toprep_inst.asp

登録件数は2011年12月31日現在 IRDBコンテンツ分析システム等による

セルフ・アーカイビングを許可している日本の学協会

色	ポリシー	学協会数	割合
Green	査読前・査読後どちらでも認める	109	4.4%
Blue	査読後論文のみ認める	583	23.5%
Yellow	査読前原稿のみ認める	10	0.4%
White	アーカイブを認めない	208	8.4%
Gray	検討中・非公開・無回答・その他	1,563	63.2%



2012年1月15日現在

出典：学協会著作権ポリシーデータベース (SCPJ)
<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/info/stat>

3 名古屋大学の機関リポジトリ

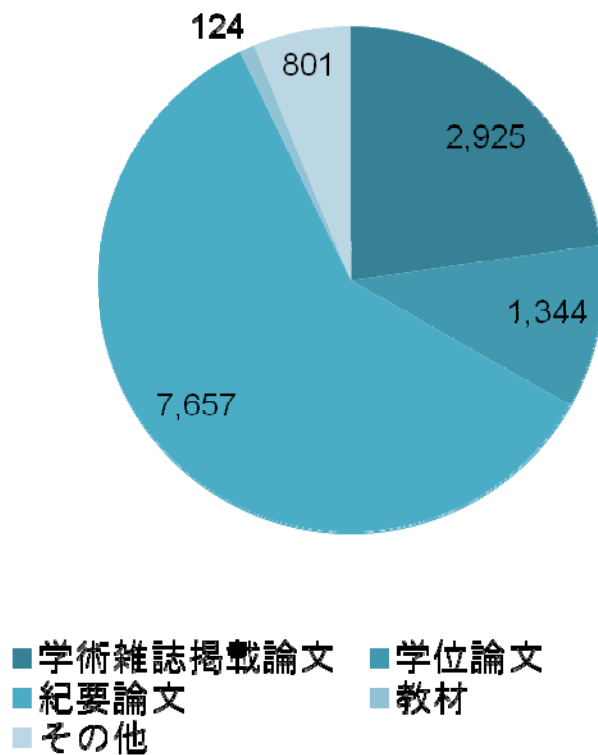
名古屋大学の機関リポジトリ（1）

■現状

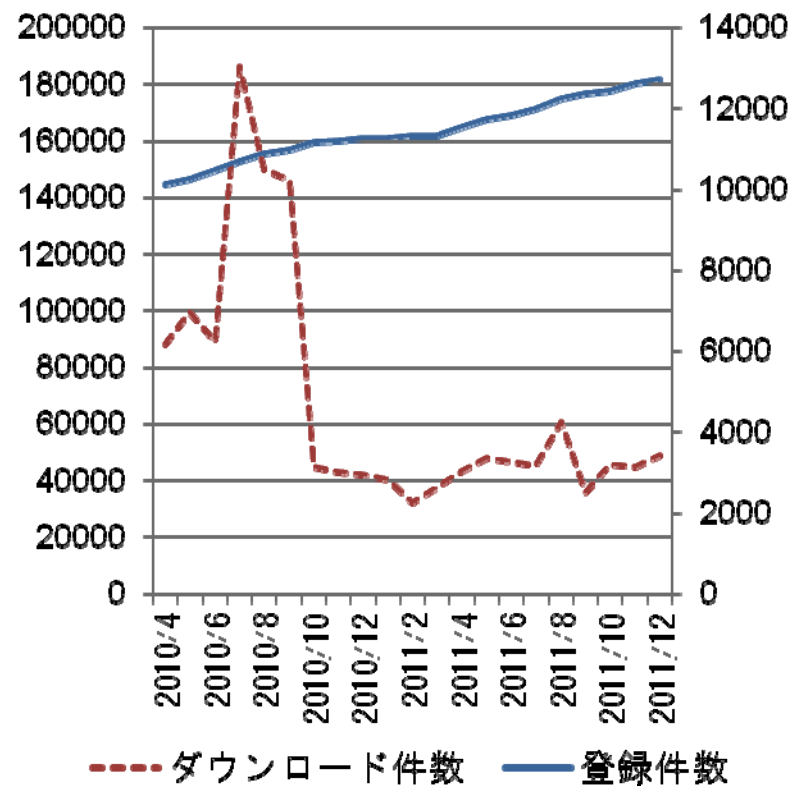
- 名古屋大学学術機関リポジトリ（NAGOYA Repository）
<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/>
- ソフトウェア DSpace
- 2006年2月一般公開（日本で7番目）
- 登録数 12,727件（2012年1月15日現在）
- 月間ダウンロード件数 44,100件（2011年）

名古屋大学の機関リポジトリ（2）

登録アイテム種別



登録件数と月別ダウンロード件数の推移



*ダウンロード件数は、2010年10月からカウント基準を変更

名古屋大学の機関リポジトリ（3）

■取組の特徴

- コンテンツ収集
 - 博士論文の電子的公開の実施（平成22年度：教育研究評議会了承）
- 研究開発
 - クラウド環境における電子出版・リポジトリ連携実証実験
- 研究者協力コミュニティの形成（平成16年度）
- 可視性の向上
 - NDLTD（博士論文）， OAlster（OCLC）， JAIRO（NII）， CiNii（論文）， 国立国会図書館サーチ， Google

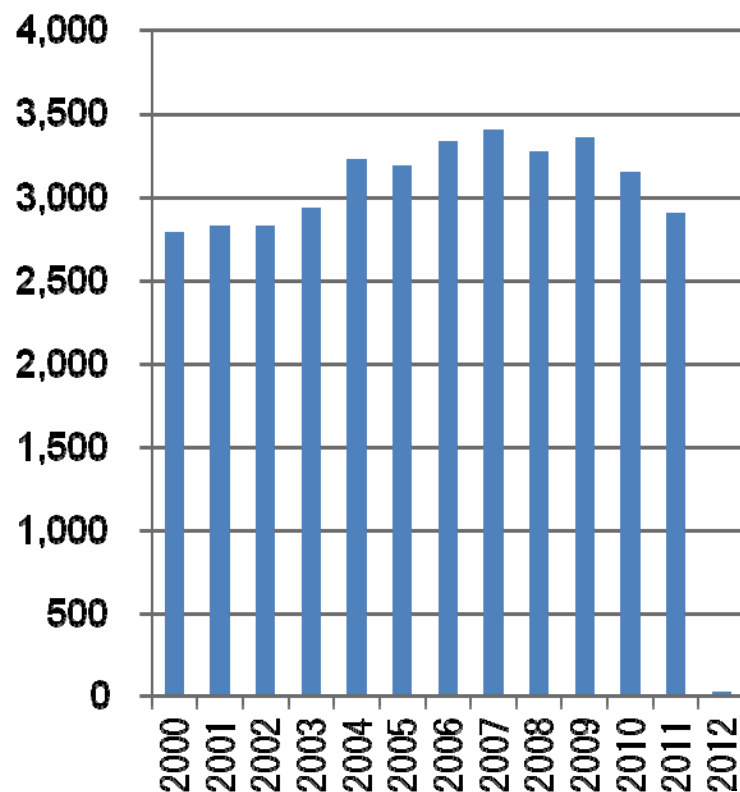
名古屋大学の機関リポジトリ（４）

■課題

- コンテンツの収集
 - 学術雑誌掲載論文・紀要論文の収集拡大
- 広報・アドボカシー
 - 広報資料の作成・説明の実施
 - 利用統計の活用
- 研究者コミュニティ
 - 「研究者協力コミュニティ」の活性化
 - 電子出版・リポジトリ連携の具体化

名古屋大学の機関リポジトリ（5）

Web of Scienceの名古屋大学所属研究者の収録件数の推移: 2000年～2012年



助成金を受けている名古屋大学の研究成果: 2000年～2012年

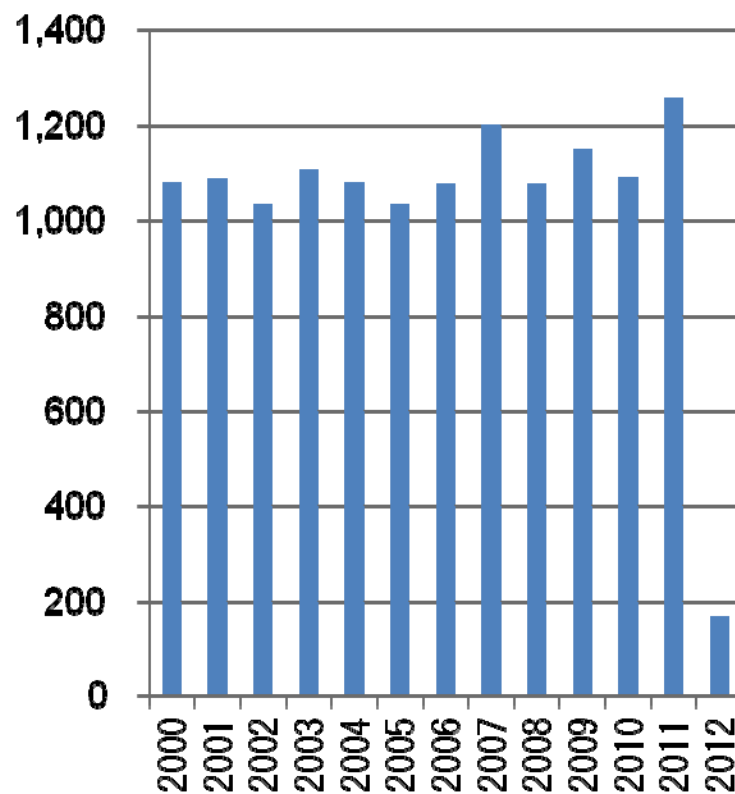
順位	助成金提供機関*	件数
1	文部科学省	2,808
2	日本学術振興会	1,622
3	厚生労働省	413
4	科学技術振興機構	270
5	その他	12,861
計		17,974

*助成金提供機関の表記が統一されていないため、上位100件のみ名寄せを行った

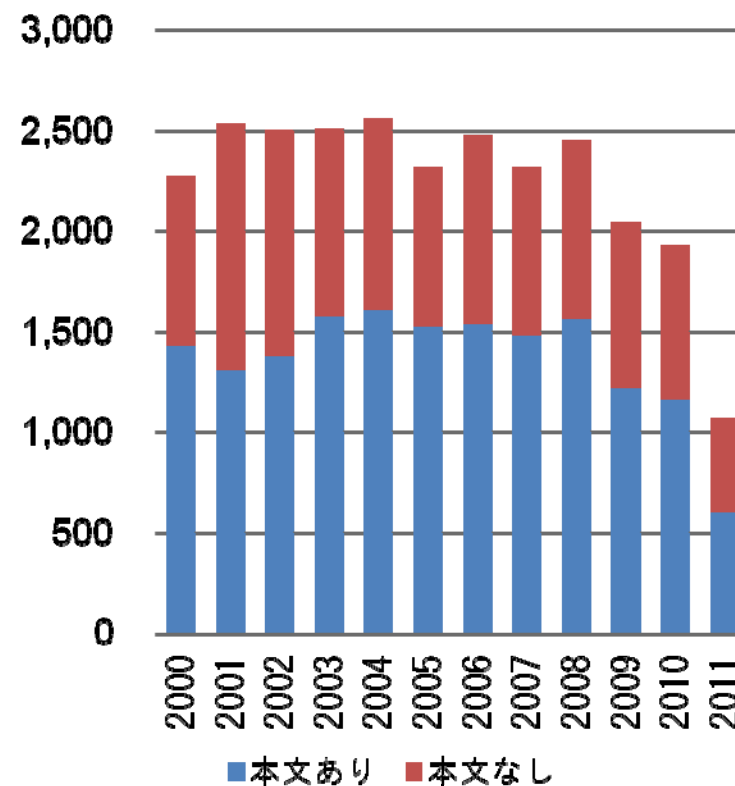
出典：Web of Science
2012.1.15調査

名古屋大学の機関リポジトリ（6）

ScienceDirectの名古屋大学所属研究者の論文数の推移: 2000年～2012年



CiNii Articleの名古屋大学所属研究者の収録件数の推移: 2000年～2011年



4 課題と今後の対応

課題と今後の対応：推進方策

- 「科学技術基本計画」 平成23年8月19日 閣議決定

(3) 研究情報基盤の整備

<推進方策>

・国は、大学や公的研究機関における機関リポジトリの構築を推進し、論文、観測、実験データ等の教育研究成果の電子化による体系的収集、保存やオープンアクセスを促進する。また、学協会が刊行する論文誌の電子化、国立国会図書館や大学図書館が保有する人文社会科学も含めた文献、資料の電子化及びオープンアクセスを推進する。

課題と今後の対応：素描

事項	目標	対応
オープンアクセス	収録コンテンツの網羅性の拡大	コンテンツの登録の義務化等の促進
パブリックアクセス	公的助成を受けた研究成果の公開	共用リポジトリへの登録
eサイエンス	支援基盤の構築	研究データ等の収録範囲の拡大
プラットフォーム	大量で多様なコンテンツの保存と利用	次世代機関リポジトリプラットフォームへの開発と移行
研究論文等の研究成果	捕捉と利活用の促進	大学情報データベースと密結合したシステムへの移行
紀要論文	電子化と最新情報の発信	OJS等による電子化紀要の発行と機関リポジトリへの登録
図書	大学出版会との連携	絶版図書等のオープンアクセス化

課題と今後の対応：大学図書館の役割

- ボーンマス大学のデイビッド・ボール (David Ball) は電子時代が大学図書館業務を一新する可能性があるとは指摘する。すなわち、図書館は他の大学の研究成果を収集し、蓄積し、配布する代わりに、所属する学者の研究成果を収集し、より広範囲の学術コミュニティがそれらを利用できるようにするのである。